



笛南中通信

甲府市立笛南中学校
文責 校長 鈴木 昇

保護者＋地域回覧特集

平成 30 年度

全国学力・学習状況調査の結果は？

テストは、4月17日(火)に国語・数学・理科を実施し、全国の状況については、8月に公表されました。よく注目されるのは、平均点の比較ですが、山梨県の結果は、全国の中で中学校の国語・数学・理科ともに全国の平均とほぼ同じでした。甲府市は山梨県の平均とほぼ同じか、少し上回っている状況でした。

さて、本校の傾向は、全体的には甲府市や山梨県と同等ですが、全般に若干低く、全国と比べて国語・理科は同等、数学は少し低めという結果でした。先生方が分析し、授業の改善策を、次のとおりお知らせいたします。地域・保護者の皆さんも参考にしてください。

(教科の後のABは、Aは基本、Bは応用となっています)

国語 AB

○意欲関心態度 ○記述問題

▲選択問題

語句の意味、使い方の知識に課題がある。話し合いの中で場面や相手に応じた発言を考える力に課題がある。書写・特に行書に関する知識に課題がある。

→文章に出てくる言葉や慣用句の意味を調べたり、考えさせたりする場面を多く設定する。

→話し合い、または聞き取りの学習場面で、相手がどのような状態、知識を持って参加しているのかを意識して行うことを向上させる。

→書写の授業で、行書の特徴について再度確認する。

数学 A

▲資料活用 ▲数学的な技量

▲選択問題 ▲無回答が多い

一次関数の意味や、式とグラフの関係、 x の増加に伴う y の増加量を求めることなどに課題がある

与えられた資料から、中央値を求めたり、表などを利用して確率を求めたりすることに課題がある。

→比例反比例、一次関数の式、グラフ、表の関係を比較できるような授業を行う。

→変化の割合についても、意味の確認やグラフとの関係が理解できるような授業を行う。

→資料の活用では、代表値の求め方をもう一度復習し、演習問題を行う。

→確率についても、演習問題の時間を多く取り、確実な力となるようにする。

数学 B

○図形領域 ○選択問題

▲資料活用 ▲数学的な技量

与えられた情報から、必要な情報を選択し、割合を求めること、的確に処理をすること、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

成り立つ理由を、構想を立てて説明することに課題がある。

→割合の基本的な練習をする。

→数学的な表現を用いて説明する基本事項を理解させ定着させる時間を多く設定する。

理科

▲生物領域 ▲科学的な思考・表現

▲記述問題

学んだ知識を全体的な視点で捉えて自分の言葉で表現することに課題がある。

関連する科学的な条件に配慮せず、浅い知識で回答する傾向がある。

→科学的な見方考え方の基本を念頭にして各単元の事象の科学的な解釈をさせるような学習を行う。

→生物領域の基本的な学習を強化する。

近い未来社会では、コンピュータや人工知能が人の代わりをしてくれる時代です。人間には機械やコンピュータにはできないことを生み出す力が必要だと言われています。様々な考え方や知識を融合したり組み合わせたりする力や、それを正確に伝える力が必要なのです。これを「主体的・対話的で深い学び」と言います。すでに山梨県の高校入試においても出題されて始めている状況です。

さて、家庭でできることは、何でしょうか。まず家庭で、「書くことに苦痛を感じない習慣」が大切です。説明文がかけるとになります。家庭学習で自学ノートをしている子は、よく褒めてください。そして、子供の話しをよく聞いてください。親として子供の言いたいことはすぐに分かりませんが、あえて不足している内容を質問してあげる。「語る中学生」の育成を進めましょう。

スマホ・ゲームで黙っている時間が多い中学生。自分を表現する活動が一番大切です。ぜひ共に育てていきましょう。



笛南中通信

甲府市立笛南中学校
文責 校長 鈴木 昇

平成 30 年度 学習状況調査の結果は？

家庭生活の状況

だいたい同じ時刻に起きるは、9割
だいたい朝食を食べているは、8割
だいたい同じ時刻に寝ているは、6割
新聞を読んでいる 月に1, 3回以下が9割
ニュースをみる 9割
毎日読書を1時間以上しているは、2割

放課後の活動で多い順に、
部活動、テレビ・ビデオ・インターネット・ゲーム、塾で勉強、家で勉強、家族と過ごす

週末の活動で多い順に、
部活動、テレビ・ビデオ・インターネットゲーム、家族と過ごす、

家族、地域との関係

家の人と学校のことを話す8割
地域を調べたり、地域の人と関わったりする9割
地域の行事に参加している 7割
地域や社会で起きている事に関心を持っている 7割
地域をよくするために何をすべきか考えたことがある5割
地域ボランティアに参加したことがある7割
大人の人に勉強やスポーツを教えてもらったことがある3割

家庭学習の状況

○宿題をしているは9割
▲予習・復習をしているは5割
▲計画的に家庭学習をしているは4割
▲家庭学習2時間以下が6割(塾を含む)

暮らし方、生き方

いじめはどんな理由があってもいけないことだ 9割
人の役に立つ人間になりたい 全員
将来の目標を持っている7割
学校の規則を守っている 9割5分
自分には良いところがある 8割
先生は、あなたの良いところを認めてくれている 8割

以上 左のような回答傾向がありました。

○▲は、県や市の値と比べて高い値が○、低い値が▲です。

本校の生徒は、概ね規則正しく生活をしている生徒が多く、地域や家族との時間を大切にしていることが分かります。

しかしながら、家庭学習の時間については、県や市と比べると少ないのです。この傾向は本校の特徴で、家庭学習に小中連携して取り組み、自主学習ノートづくりによる習慣化の取り組みを続けています。そのおかげで、ほとんどの生徒が家庭で自分の考えた学習をしていくところまで進んできました。しかし、計画的な学習の値が低いように、「とりあえずこれでもやるか」的な活動でとどまっている状況です。授業や弱点克服などの目標を持って取り組ませるようにしていきます。ご協力ください。

学習時間の少ないことは、調査結果の中で、「問題の解答に時間が足りなかった」という割合が多いところにも影響しています。

笛南中では、授業と関連した家庭学習にしていく努力を進めています。例えば1学年では、授業と関連した現実的な課題を出題し、意欲的に調べて回答するといった発展的な取組なども進めているところです。

また、スマホやゲーム機で費やす時間が多くなり、学習時間の確保ができなかったり、就寝時刻が不規則になったりしているのではないかと心配です。かつての3年生が、断食ならぬ「断LINE」を友達同士で決めて、学習に集中したという逸話もあります。

3年生は高校進学のための重要な時期となりました。ご家庭でも「学習をする決意」を育て、支え、応援しましょう。

何があっても、家庭が基盤です。子供の将来は最終的には本人が決めると思いますが、中学生までは、その将来を決める判断のもとになる「自分の力、特徴、実力」を家庭と学校で協力して、できるだけ伸ばしてあげることが重要と考えています。

いつの間にか、大きくなった子どもたちですが、小学生時代と同じように扱っていませんか。子供に意見を求めましょう。「それは、あなたの未来にとって大切かどうか考えて判断しなさい。」なんて、質問もしてみてください。